

〔新千載和歌集雜十八〕左近大將に侍りける頃常陸のをの、御牧より草奉るを見てよみ侍りける、

大納言朝光

常陸なるをの、御牧の露草のうへしは駒のおくにぞ有ける

〔日本後紀二十一〕弘仁二年十月丙寅上野國利根郡長野牧賜三品葛原親王、

〔山槐記〕元曆元年九月十四日大嘗會官符等請印有政、十五日悠紀史國通依辨命持來日時四通

古地○中略

近江國

注進 風土記事○中略

岡見牧○中略

右注進如件

元曆元年九月 日

〔愛媛面影風速郡〕忽那島

北條の沖中に在り、俗に中島と云○中略此島古昔牛馬牧なりしを村民の訴によりて、其事を止ら

れたり、

〔筑前國續風土記十三〕遠賀郡

此郡所々に馬牧多くして、村井熊村、波津浦、杯に牧ありし其地あり、猶この外にも多かりしとかや、故に中頃より、此郡を御牧郡と稱せり、

〔夫木和歌抄二十二〕千五百番歌合戀歌あらの、ま、未、勸、之、 皇太后宮大夫俊成卿

みちのくのあらの、ま、まきのこまだにもとればとられてなれゆく物を

〔夫木和歌抄二十二〕家集人のもとへいひやりけるのとくすすゝのみまき 祐舉